



## インターステラテクノロジズ株式会社

北海道広尾郡大樹町字芽武149-7  
東京支社：千葉県浦安市当代島1-1-11-フォレストビル 6-A  
室蘭技術研究所：室蘭工業大学 地方創生研究開発センターT207室

代表取締役社長：稲川貴大 従業員数：60人

## 役員



## 稲川 貴大

## 代表取締役

## ロケット開発技術もリード

東京工業大学大学院機械物理工学専攻修了  
 大学時代に人力飛行機の全体設計責任者を経験・「鳥人間コンテスト」優勝  
 北海道科学大学 客員准教授  
 東京大学 非常勤講師  
 文科省将来宇宙輸送技術検討小委員会 委員



## 大久保 紀章

## 取締役

## 海外営業を担当

「Scentan Ventures」マネージングパートナー就任  
 インターネット、テクノロジー、メディア分野における  
 投資先の選定や投資先の事業拡大支援に注力  
 2014年「Tradeshift Japan」設立  
 海外経験が長く、海外への営業や資金調達サポートを行う



## 堀江 貴文

## 取締役・ファウンダー

## 資金調達・営業を担当

東京大学在学中「オン・ザ・エッジ」設立  
 後ライブドア代表取締役CEO  
 2006 弊社の前身組織「なつのロケット団」に参画  
 2017 取締役に就任



## 岡崎 徹

## 取締役

## 国内・海外市場における営業支援

1991 丸紅株式会社入社  
 2018 丸紅株式会社 航空・船舶本部 副本部長  
 2019 当社取締役に就任  
 業務・資本提携先の丸紅より総合商社の知見を活かし、  
 経営面でのアドバイスも行う



## 三戸 政和

## 取締役

## VCのネットワークに強み

ソフトバンク・インベストメントのベンチャーキャピタリストとして  
 日本やシンガポール、インドのファンドを担当  
 ベンチャー投資や投資先にてM&A・株式上場支援などを行う  
 2011年兵庫県議会議員に当選し、行政改革を推進



## 小林 徹

## 取締役

## CFO、管理業務を担当

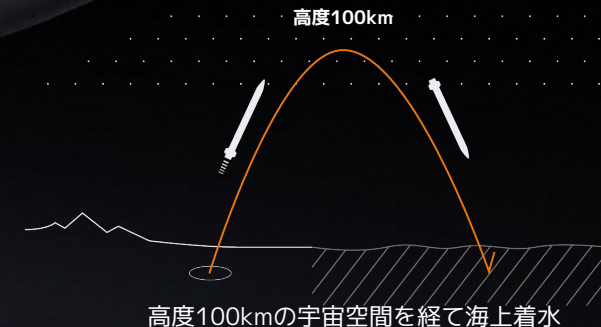
京大大学経済学部卒業  
 在学中に中小企業診断士資格を取得  
 三井住友銀行で法人営業・融資業務を経験し、2016 当社入社  
 CFO兼管理部長として財務、経理、法務等社内の管理部門責任者を務める

# MOMO

## 観測 ロケット

L: 10.1m /  $\Phi$ :0.5m / Single Stage

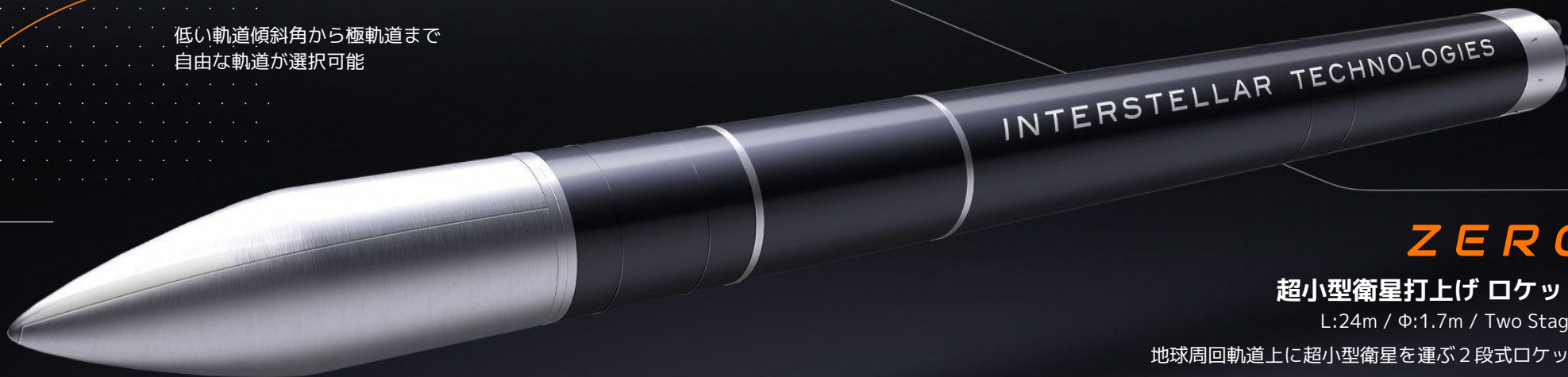
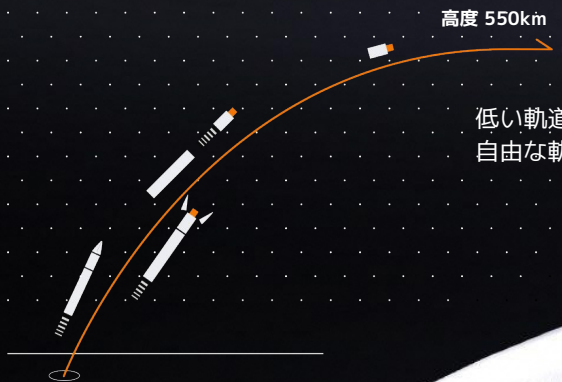
微小重力環境の科学実験などを実施  
2019年5月 打上げ3回目にして宇宙空間に到達



高度 550km

地球低軌道・極軌道

低い軌道傾斜角から極軌道まで  
自由な軌道が選択可能



# ZERO

## 超小型衛星打上げ ロケット

L: 24m /  $\Phi$ :1.7m / Two Stages

地球周回軌道上に超小型衛星を運ぶ2段階ロケット



# ロケット開発の実績



**18 機**  
ロケットの製造・打上げ実績  
(2021年7月時点)

**国内初**  
民間単独開発のロケットで  
国内初の宇宙到達

**国内唯一**  
炭化水素燃料ロケットの技術を国内で唯一保有  
(IHI = 固体燃料、三菱重工 = 水素燃料)

**世界 4 社目**  
液体ロケットでの宇宙到達は  
民間企業では世界で4社目

1st SPACE X  
2nd BLUE ORIGIN  
3rd ROCKET LAB  
4th **IST**

## 北海道スペースポート

### オール北海道

大樹町のSPACE COTAN株式会社を中心として  
北海道・北海道経済連合会等の多くの応援団とともに北海道スペースポートプロジェクトを推進中

267 億円

北海道スペースポートの整備  
による年間の道内経済効果

北海道経済連合会・日本政策投資銀行  
にて算出



酒森 正人  
大樹町長



小田切 義憲  
SPACE COTAN株式会社  
代表取締役社長 兼 CEO



鈴木 直道  
北海道知事



真弓 明彦  
北海道経済連合会 会長



米沢 則寿  
とちか航空宇宙産業基地  
誘致期成会 会長・帯広市長

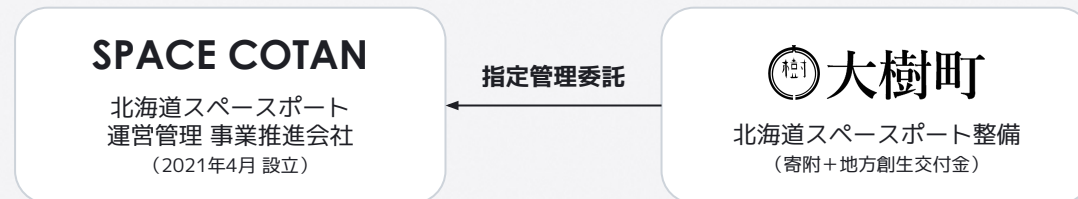


今津 寛  
北海道スペースポート研究会 会長



上杉 邦憲  
北海道宇宙科学技術創成センター  
(HASTIC) 理事長

# 北海道スペースポート



## LAUNCH COMPLEX 1

### ZEROの打上げを想定した射場

ZEROの打上げを想定し、人工衛星ロケット用の射場を専用設計。  
(2023年に完成予定)



## LAUNCH COMPLEX 2

### 年間 最大50回の打上げを目指す

年間最大50回のZEROの打上げを想定し、複数の機体の打上げ準備を行う組立棟(VAB)を完備。  
(2025年に完成予定)



## FIRING TEST

### エンジン燃焼試験設備

「Launch Complex-1」にはエンジン燃焼試験設備も完備しZEROの開発を推進。

